

櫻井会長 開演あいさつ

都道府県会長並びに事務局長の皆様におかれましては、遠路、はるばる杜の都・仙台までお運びいただき、誠にありがとうございます。

また、講師の先生方におかれましては、お忙しい中、お時間を調整いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災の被災地のひとつである利府町の議長である私が、全国会長の大役を仰せつかり、ここ宮城の地で都道府県会長会を開催できるという巡り合わせに、胸が熱くなる思いであります。

震災時、私は一議員でございましたが、当時の全国町村議会議長会が被災から半年後に仙台で都道府県会長会を開催し、被災地と被災者を励ましていただくとともに義援金を含む多大なるご支援をされたことは、深く記憶に焼き付いております。

以来、歴代会長のもと「東日本大震災からの復興」を最優先事項のひとつとして行動していただいた都道府県会長並びに事務局長の皆様に対し、本日は、「被災地はここまで元気になりました。」というご報告と「被災地をまだまだ忘れないください。」というお願いを込めて、震災復興をテーマとした講演を計画させていただいた次第であります。

講師はお二人お招きしております。

お一人目の講師は、宮城県の村井嘉浩知事であります。

皆様の記憶の中にある 3.11 の惨状から、故郷を取り戻すため、被災地では血のにじむような苦労と努力によって、復興事業が進められておりますが、宮城県における復興事業の陣頭指揮を執られているのが村井知事であり、本日は復興の進捗と課題について講演いただくことにしております。

もうお一人は、震災で犠牲となった一人の女の子のエピソードを元に震災を風化させないための活動を行っている菅原淳一さんです。

被災した自治体や住民が、今、最も恐れていることは、災害の記憶が薄れゆくこととあります。復興が進み、見た目は元通りになっても、被災者の方々に刻まれた震災の傷痕と後遺症は深く残されたままであります。

震災を風化させず教訓として語り継ぐ菅原さんの活動報告をお聞きいただき、新たなステージに入った復興支援の在り方について考えていただければ幸いです。

復興は進んだとはいえ、未だ道半ばであります。本日の講演会を通じ、被災地の現状をご認識いただき、引き続き、復興へのご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます、記念講演開演にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成 30 年 5 月 29 日

全国町村議会議長会会長 櫻井 正人